

設計・計画部門



おおたひろと  
太田裕人

生年月 1982年6月神奈川県生まれ  
最終学歴 2007年早稲田大学理工学  
研究科建築学専攻  
業務経歴 2007年㈱大林組入社  
現在、大阪本店建築事業  
部建築設計部副課長  
●担当した主なプロジェクト  
2009年 パナソニック㈱セミコンダ  
クター社砺波工場E棟  
2011年 太陽生命長野支社  
2013年 ロジポート相模原  
2015年 三井不動産ロジスティクス  
パーク日野 (MFLPH野)  
2015年 イワタニ水素ステーション  
東京池上

■青年技術者のことば

私は、建築物が都市のターミナル機能を持っていると常に意識し、日々設計を行っている。ターミナルとは、終着駅や末端、端末という語源から派生して、日本では、広く、交通機関や物が多く集まり、またひとが多く集う起終点や拠点の意で捉えられている。多くの物や情報が集まり、発信される拠点である。また、集められた物や情報を求め、たくさんのひとが集い、そしてまた、次の目標地へ向けて出発する拠点でもある。建築物には有限な敷地があり、当然そこに建てられる建物もまたそれ自身は動くことのできない固定された物である。しかし、そこに関わるひとや物の存在によって、都市インフラや交通の拠点であったり、地域文化や歴史の継承拠点であったりと、建築物が都市のターミナルとして機能していく。建築物はありとあらゆる周辺を巻き込む力を持っている。言い換えれば、建築物は都市に施した「しかけ」とも言える。そして、「しかける」ことが設計行為だ。そんな「しかけ」をどのようにするか、どんな「しかけ」をつくるか思いを巡らせ、実際に「しかける」ことが実に楽しく、わくわくさせる。私は、この思考と行為こそが建築家と社会をつなぐ接点であると考えている。

■すいせん者

松井宣明  
㈱大林組 大阪本店 建築事業部  
建築設計部 部長

三井不動産ロジスティクス  
パーク日野 (MFLPH野)

超大型物流ターミナルの効率化を実現する一方で、住宅地に隣接する敷地条件という課題に対し、真摯に回答した。建物を広大な緑地でくみ、地域環境の保全に努め、その一部を一般開放することで近隣住民にもやさしい施設を目指した。整形で暴力的になりがちな建物ボリュームは、壁で分割し、壁の集合として見せることで軽快さを与えている。また、バルコニー部分に縦樋やウェザーカバーをまとめ、粗密を強調して壁面を分節することで、スケール感の低減を図った。物流の原点に立ち返り、物とひと両方が主役である物流ターミナルの実現を意識した。



イワタニ水素ステーション東京池上

水素ステーションにコンビニエンスストアが併設された現代版ターミナル。機能的に「クローズ」な水素貯蔵棟にはソリッドな材料、重い色調を使用する一方、明るく「オープン」なコンビニ・事務所棟はガラスカーテンウォールを用いた軽い箱としている。対比的な表現の2つの建物を、交差点に対し、両腕を広げるように配置することで、「未来のインフラである水素エネルギーと生活のインフラであるコンビニエンスストアのコラボレーション」の在り方を提示している。